

改訂前	改正後
<p>【用法及び用量】 投与量や投与回数のコントロールに用いられるのは、Quick 1 段法によるプロトロンビン時間の測定やトロンボテストである。 治療域は前者では正常値に対する比が 2 倍前後、活性に換算して 15～30% とするものが多く、後者では 10% 前後とするものが多い。 投与法は、ワルファリンカリウムとして、成人初回 20～40mg を経口投与し、1 両日休薬して凝固能が治療域に入ったのを確認して 1～5mg 程度の維持量を毎日 1 回経口投与する方法と、初めから 5～6mg を毎日 1 回経口投与し、数日間をかけて治療域に入れ、以後維持量を経口投与する方法とがある。 ワルファリンに対する感受性には個体差が大きく、同一個人でも変化することがあるので、プロトロンビン時間測定、トロンボテストなどを特に治療初期には頻回行い、治療域を逸脱しないよう努力する。 抗凝固効果の発現を急ぐ場合には、初回投与時ヘパリンを併用することがある。 小児における維持投与量 (mg/kg/日) の目安を以下に示す。 12 ヶ月未満 : 0.16mg/kg/日、 1 歳以上 15 歳未満 : 0.04～0.10mg/kg/日</p>	<p>【用法及び用量】 本剤は、血液凝固能検査 (プロトロンビン時間及びトロンボテスト) の検査値に基づいて、本剤の投与量を決定し、血液凝固能管理を十分に行いつつ使用する薬剤である。 初回投与量を 1 日 1 回経口投与した後、数日間かけて血液凝固能検査で目標治療域に入るように用量調節し、維持投与量を決定する。 ワルファリンに対する感受性には個体差が大きく、同一個人でも変化することがあるため、定期的に血液凝固能検査を行い、維持投与量を必要に応じて調節すること。 抗凝固効果の発現を急ぐ場合には、初回投与時ヘパリン等の併用を考慮する。 成人における初回投与量は、ワルファリンカリウムとして、通常 1～5mg 1 日 1 回である。 小児における維持投与量 (mg/kg/日) の目安を以下に示す。 12 ヶ月未満 : 0.16mg/kg/日 1 歳以上 15 歳未満 : 0.04～0.10mg/kg/日</p>

改訂前	改正後
<p data-bbox="188 316 770 352"><用法・用量に関連する使用上の注意></p> <ol data-bbox="188 363 1120 975" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="188 363 1120 491">1. 血液凝固能検査（プロトロンビン時間及びトロンボテスト）等に基づき投与量を決定し、血液凝固能管理を十分に行いつつ使用すること。 <li data-bbox="188 502 1120 735">2. プロトロンビン時間及びトロンボテストの測定値は、活性（%）以外の表示方法として、一般的に INR（International Normalized Ratio：国際標準比）が用いられている。INR を用いる場合、国内外の学会のガイドライン等、最新の情報を参考にし、年齢、疾患及び併用薬等を勘案して治療域を決定すること。 <li data-bbox="188 746 1120 975">3. ワルファリンに対する感受性には個体差が大きく、出血リスクの高い患者が存在するため、リスクとベネフィットのバランスを考慮して初回投与量を慎重に決定すること。なお、初回投与量は、高用量での出血リスク、年齢、疾患及び併用薬等を勘案し、できる限り少量とすることが望ましい。 	<p data-bbox="1146 316 1729 352"><用法・用量に関連する使用上の注意></p> <ol data-bbox="1146 363 2078 836" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="1146 363 2078 502">1. 血液凝固能検査（プロトロンビン時間及びトロンボテスト）等に基づき投与量を決定し、治療域を逸脱しないように、血液凝固能管理を十分に行いつつ使用すること。 <li data-bbox="1146 513 2078 746">2. プロトロンビン時間及びトロンボテストの検査値は、活性（%）以外の表示方法として、一般的に INR（International Normalized Ratio：国際標準比）が用いられている。INR を用いる場合、国内外の学会のガイドライン等、最新の情報を参考にし、年齢、疾患及び併用薬等を勘案して治療域を決定すること。 <li data-bbox="1146 758 2078 836">3. 成人における維持投与量は1日1回1～5mg程度となることが多い。